

カンボジア・シェムリアップ渡航  
レポート

(2023年10月26日—10月29日)

Report By: オング ボシ

2023年11月6日

2023年10月26日（木）～10月30日（日）、3泊5日で、カンボジアにおける最大の観光地域、シェムリアップへ渡航してきました。初めてのカンボジア旅とのこともあり、現地の観光の移動を楽にしたいため、今回は「エーペックス・インターナショナル（APEX International）」旅行会社にカンボジア現地ツアーの手配をしてもらいました。

「エーペックスインターナショナル」は、東南アジアを中心に、カンボジアやタイ、ベトナム等で旅行ツアーの手配・運営を行う「ランドオペレーター」です。多くの日本国内旅行代理店と協業し、東南アジア旅行に関するプロフェッショナルサービスを提供する企業です。

日本からカンボジアまでの航空ルートは、現在大阪から直行便はないため、ベトナム航空会社を利用し、ベトナム経由でシェムリアップへ行ってきました。行き便は、26日の10時30分に関西空港を出発し、ベトナムのハノイを経由し、17時10分頃にシェムリアップ空港に到着しました。帰り便は、29日の21時35分にシェムリアップ空港を出発し、ベトナムのホーチミンを経由し、翌日30日の7時頃に大阪に着きました。



【シェムリアップ・アンコール国際空港】

そして、今回は、先日、10月16日（月）に開業された、新しい「シェムリアップ・アンコール国際空港（Siem Reap Angkor International Airport）」に到着することができました。「シェムリアップ・アンコール国際空港」は、2020年3月に建設が開始され、コロナ禍と労働力不足の影響により遅れがあり、ついに2023年10月に第1期工事が完了されました。新しい空港は、約700ヘクタールの総敷地面積があり、カンボジア国内空港の中で最長となる3,600メートルの滑走路が完備されています。



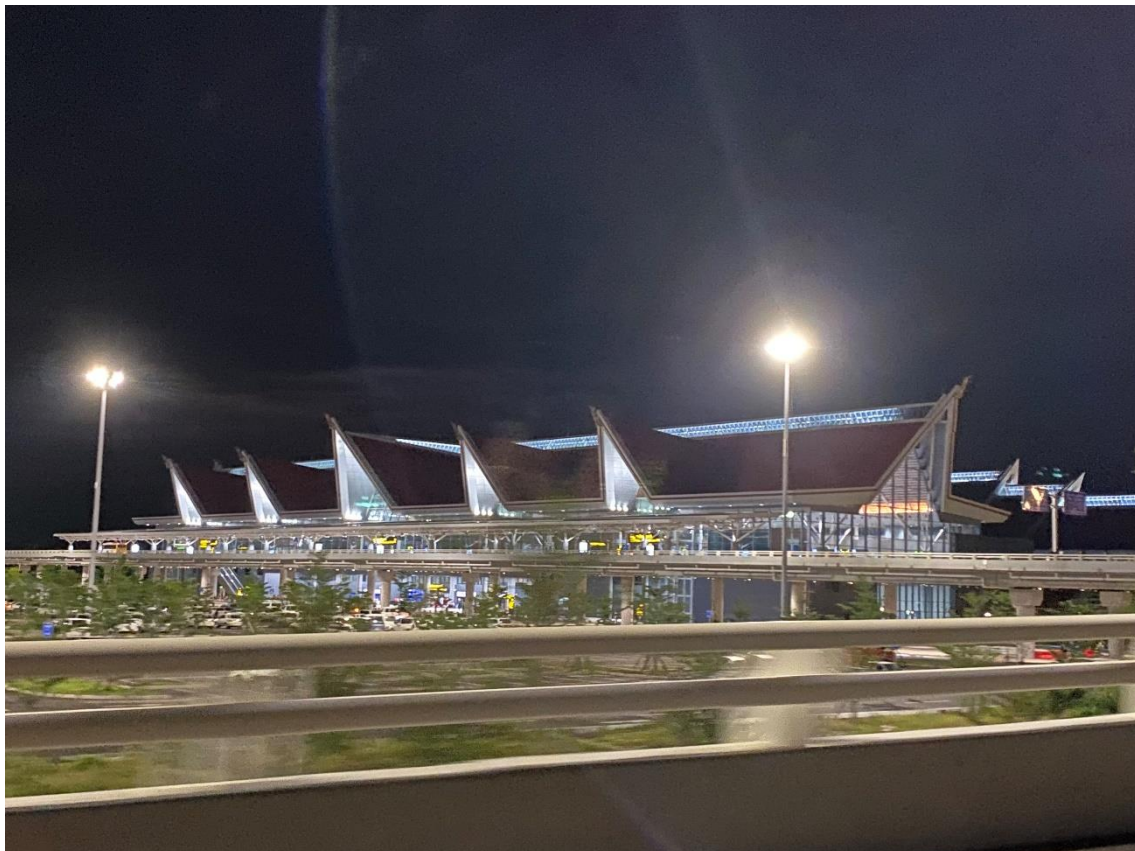
【シェムリアップ・アンコール国際空港の到着ロビー】



【空港の外の様子】



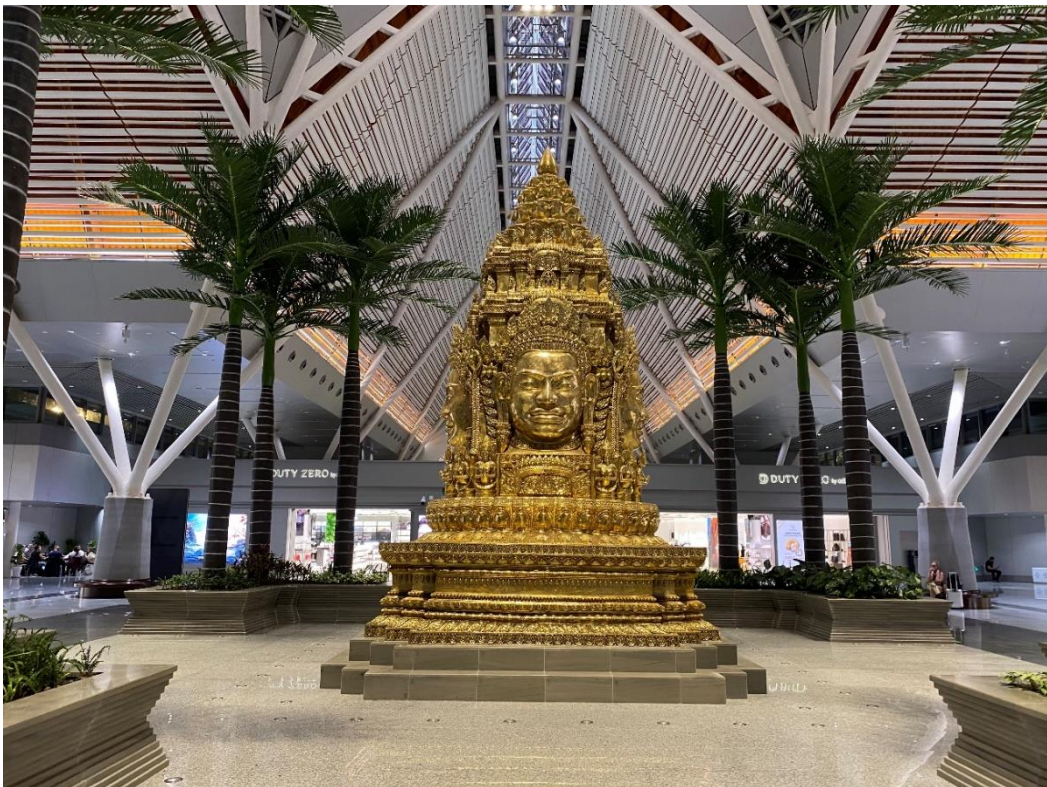
新しくオープンされたところとのこともあり、空港の一部の施設・サービス（レストラン等）は、まだ出来ていないようです。しかし、空港の外観はとても洗練され、内観も非常にキレイで広がったです。空港の中央に巨大な金属の観世音菩薩の四面塔が立てられています。



【シェムリアップ・アンコール国際空港の外観】



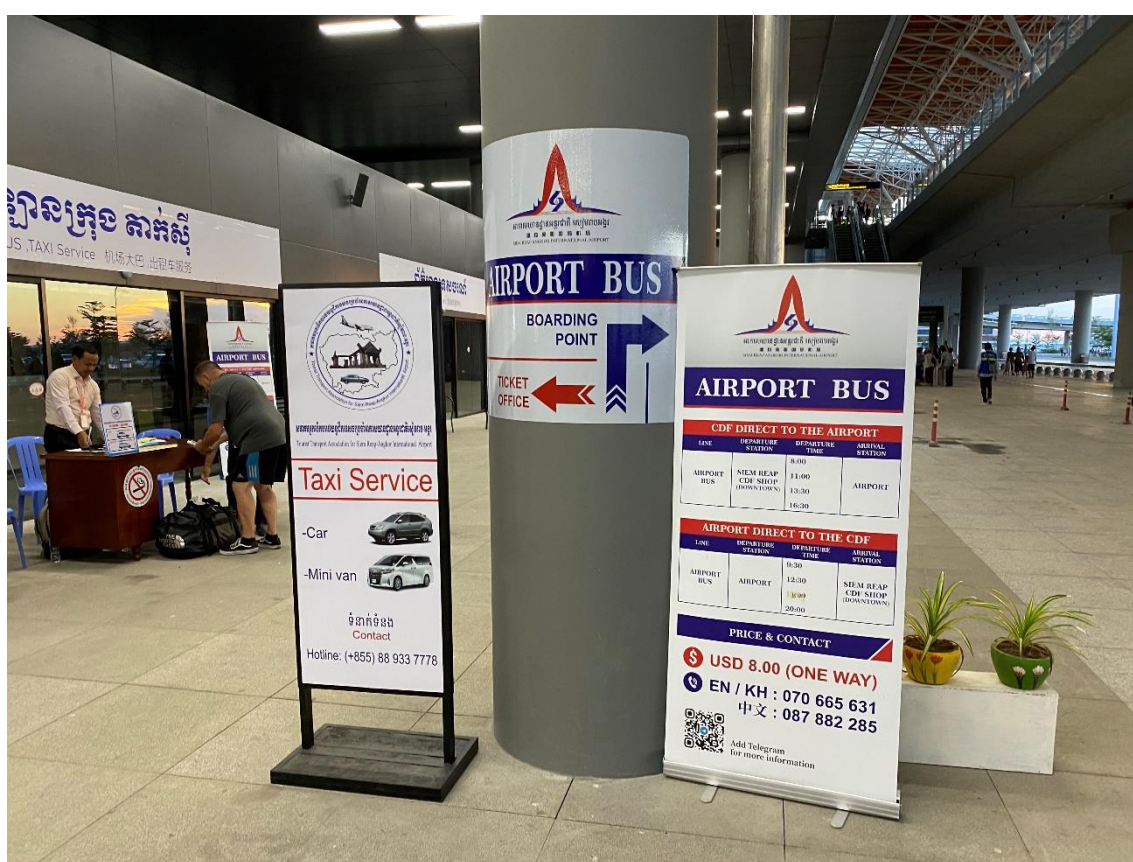
【空港のチェックインカウンター】



【空港の中央にある巨大な金属観世音菩薩の四面塔】

また、新しい空港は、前の空港より、シェムリアップの中心からさらに遠くなりました。旧シェムリアップ空港からシェムリアップ市街までは、車で約15分で移動できますが、新しい空港は、シェムリアップ市街から50キロの距離となり、車で約1時間がかかります。かなり距離がありますので、トゥクトゥクでの移動は不可です。

そのため、新しい空港からシェムリアップ市街までは、有料のエアポートバス〔片道でUSD8（約1,200円）〕が提供されています。しかし、私が訪れた際に、エアポートバスを利用する人はあまりいなかったようです。旅行代理店かホテルの送迎車・バスを使って、シェムリアップ市街へ移動する観光客が多かったです。



【シェムリアップ市内までのエアポートバス乗り場】

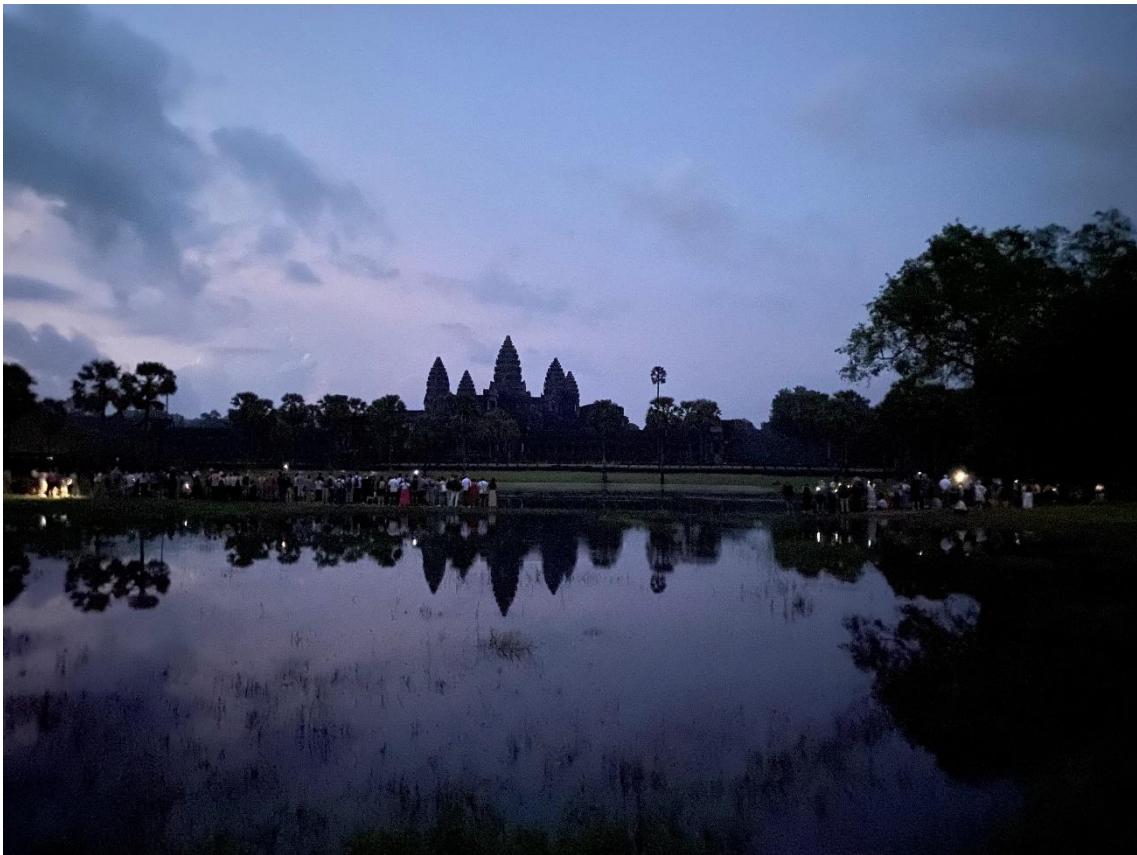
11/26（1日目）は、シェムリアップ空港に着いてから、APEX Internationalの担当ガイドさん（日本語ができるカンボジア女性の方）が迎えに来てくれました。車でシェムリアップ市街へ移動し、夕食の場所、「マリス」とのカンボジア料理レストランへ連れて行きました。夕食後、今回の宿泊先、「Pacific Hotel & Spa」へチェックインしました。ホテルは、シェムリアップ市街から車で約10分がかかり、シェムリアップの有名な路線「国道6号線」沿いに位置しています。



【今回の宿泊先のパシフィックホテルの様子】



11/27（2日目）は、朝からアンコール・ワットで朝日観賞をし、午前中はアンコール・トム（バイヨン寺院、バプーオン、象のテラス、ライ王のテラス）遺跡巡りをしました。午後は、再びアンコール・ワットへ行き、アンコール・ワットの中に入り、第一回廊から第三回廊まで登って行きました。その後、巨大なスポアン（榕樹）の木が遺跡を侵食していることで有名なタ・プローム遺跡へ見学に行きました。最後に、プレ・ループ遺跡で夕日観賞をしました。プレ・ループ遺跡は、かつてここで火葬の儀式が行われていたと言われています。



【アンコール・ワットにて朝日観賞】



【アンコール・トムのバイヨン寺院】



【バプーオン寺院】



【象のテラス遺跡】



【ライ王のテラス遺跡】



【アンコール・ワットへの西参道】



【アンコール・ワットの第三回廊へ】



【アンコール・ワットの第一回廊にある壮大なレリーフのギャラリー】





【タ・プロム遺跡】



【プレ・ループ遺跡にて夕日観賞】

11/28 (3日目) は、午前中はシェムリアップの郊外にある、バンテアイ・スレイ遺跡へ見学に行きました。バンテアイ・スレイ遺跡は、赤色砂岩とラテライトで造られた「東洋のモナ・リザ」彫刻で有名なところです。



【バンテアイ・スレイ遺跡の東洋モナ・リザの彫刻】

午後は、先月9月17日にカンボジアの第四目の世界遺産に登録されたところの、コー・ケー遺跡群へ見学に行きました。コー・ケー遺跡群の中で一番注目されるのは、約30メートル高さで7段のある、巨大ピラミッド寺院の「プラン」です。寺院の横に木造の階段が設置され、上まで登ることは可能です。

コー・ケー遺跡群は、シェムリアップ中心から北東方面へ約100kmのところであり、車で約2時間です。場所が遠いとのこともあり、アンコール・ワットと比べると、コー・ケー遺跡群を訪れる外国人観光客は断然少ないようです。私が訪れた日には、地元の人や他州（プノンベン等）から来られたカンボジア人がほとんどです。また、巨大ピラミッド寺院「プラン」以外は、コー・ケー遺跡群の周辺にも多くの小さい遺跡があります。小さい遺跡でも、建築が若干違いますので、意外と面白かったです。



【巨大ピラミッド形のプラン寺院】



【コーケー遺跡群の周辺にあるプラサット・ダムレイ遺跡】



そして、夜は「アマゾン・アンコール」とのレストランにてビュッフェディナーを堪能しながら、アプサラ・ダンス・ショーを鑑賞しました。



【アマゾン・アンコールレストラン】



【アプサラダンス・ショー】

11/29（4日目）は、東南アジアにおける最も巨大なトンレサップ湖のクルーズツアーに参加し、ボートでトンレサップ湖の水上の村、「チョンクニア」へ見学に行きました。今雨季の関係で湖の水位が高く、トンレサップ湖のクルーズを堪能できるベスト時期です。

トンレサップ湖には、水上家屋だけでなく、商店や学校からお寺、教会等までの施設もあり、それを知っていると驚きました。また、水上家屋は扉がないため、ボートから生々しく水上家屋の人々の暮らしが見られ、本当に不思議な風景でした。広くない水上家屋で、そして、設備が足りなく、不便そうな環境の中で、集落の人々はどのように生活するのかは、本当に想像できませんでした。また、ガイドさんから、水上家屋の人々は雨季と乾季の関係で、年に4回ぐらい引っ越さないといけないとのことを聞き、それはかなり大変じゃないかと思いました。



【トンレサップ湖のボートツアー】



【チョンクニア集落にある教会】



【水上家屋の様子】

トンレサップ湖のクルーズの後、シェムリアップ市内のお土産店で買い物をし、夕方にシェムリアップ空港へ向かって、日本へ帰国しました。



【シェムリアップで最も有名な市場、オールド・マーケット】



【カンボジアの伝統工芸品のお店、アーティスト・アンコール】

カンボジアの気候ですが、行った頃はそろそろ雨季の終わりとなっていますが、まだスコールのような天気でした。しかし、滞在中は晴れの日が多く、暑かったです。遺跡に登った際に、遺跡の上には風が吹いて涼しいかと思っていましたが、あまり風がなく、結構汗をかいていました。また、遺跡見学の際に、蚊に刺されたりすることもあり、やはりカンボジアで観光をする際に、虫除け対策が必須です。

そして、現在カンボジアのポストコロナの状況ですが、シェムリアップの街ではマスクをしている人はあまり見かけていませんでした。また、シェムリアップの商業施設やホテル、レストラン等の営業は、ほとんど再開され、街の活気も戻りつつあるようです。しかし、シェムリアップへの外国人観光客数は、まだ完全に回復していないようです。ガイドさんによりますと、現在の外国人観光客数は、コロナ禍前の3-4割ぐらいだそうです。コロナの前は、中国と日本からの観光客が多かったのですが、今回シェムリアップ滞在中、街で中国と日本の観光客はあまり見かけていませんでした。一方、欧米と韓国からの観光客が多かったです。



【シェムリアップのナイトスポットのパブ・ストリートの様子】

今回のカンボジア旅行から得た感想は、カンボジアは本当に遺跡が多いとことに気が付きました。大きな遺跡だけでなく、小さな遺跡も多くあります。カンボジアは、約半分の面積は森林に覆われていますので、未だに発見されていない遺跡もあると言われてい

ます。  
また、遺跡の修復はかなり大変であるとのことがわかりました。遺跡見学の際に、自然などの影響で遺跡が崩れたり倒れたりし、まだ修復されていない遺跡、または修復作業を待っている遺跡は多く見かけました。遺跡の修復はとても手間がかかりそうで、決して簡単な作業ではないと思っています。遺跡の維持・管理と修復に対し、各外国の遺跡調査団による国際協力がなければ、今多分カンボジアの遺跡を美しい状態で見学することは不可だと思



【アンコール・トムの近くに修復待ちの遺跡が並んでいる】

今回の旅行を通じて、非常にカンボジアの魅力さが感じられ、行くかいはありました。カンボジアに対する印象もだいぶ変わりました。カンボジアの遺跡は、それぞれの特徴と神秘さがあり、素晴らしくて感動しました。もし余裕の時間があれば、もう少しゆっくりでシェムリアップの遺跡を堪能したいのです。また、カンボジアの人々もとても親切で、ホテルやレストランを利用した際に、温かいおもてなしで接してくれました。



【カンボジアの路辺のモバイル屋台】

カンボジアは、誇る遺跡や伝統的なクメール文化、豊かな自然、多様な食文化などの魅力的なところが多くあります。したがって、まだカンボジアへ行かれたことない方は、是非一度カンボジアを訪れて、カンボジアという「Kingdom of Wonder（不思議の王国）」のことを体験してほしいです。

## 参考文献

1. APEX International Inc. <https://www.apex-asia.co.jp/>
2. 日本貿易振興機構 (JETRO)、「シェムリアップ・アンコール国際空港が試験運用開始」 by トー・タイ、2023年10月25日、  
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/10/37180026c904e5ca.html>
3. Wikipedia 「Siem Reap-Angkor International Airport」、7 November 2023、  
[https://en.wikipedia.org/wiki/Siem\\_Reap%E2%80%93Angkor\\_International\\_Airport](https://en.wikipedia.org/wiki/Siem_Reap%E2%80%93Angkor_International_Airport)